

例えば

### 😊さんの場合

- 大好きな電車のことになると、専門家顔負けの知識を持っていて周りに感心される
- 自分のことばかり話し、はっきりと「終わりにしてください」と言わないと話が止まらない
- 一方的でやりとりがしにくい



例えば

### 😊さんの場合

- よく知っている場所では一生懸命活動に取り組むことができる
- 急に予定が変わったり、初めての場所に行ったりすると、不安で動けなくなることがある
- 一人遊びが多い



いろんな表現  
 いろんな感じ方  
 いろんな特性

例えば

### 😊さんの場合

- 頭の回転が速く、話が流暢
- 書くことが苦手。授業ではノートに書くことに必死で内容が頭に入っていない
- 音に敏感



例えば

### 😊さんの場合

- 困っている人がいると誰よりも早く気づき、手助けができる。気配りが得意
- 大切な予定を忘れたり、物を置き忘れたりしてしまう
- 極端な偏食



# “得意”も“苦手”も人それぞれ 子どもの特性と向き合う

困障がい福祉課 ☎(235)4813 ㊟(233)5731

子どもの発達や成長には個人差があります。得意なことや苦手なことも異なります。一人一人の特性を理解することは、子どもがいまいきと過ごせる環境をつくり出すことにつながります。

## 特性を知る

市の相談窓口には、「子どもの行動に戸惑い、どうすればよいのか分からない」という相談が保護者から寄せられることがあります。一見して分かりづらい行動の中にもさまざまな特性(3頁)があります。「得意」と「苦手」の差が大きい場合、「発達障がい」の疑いがある」と診断されることもあります。上手にできないことは努力不足やわがままとは限らず、子ども自身も困っているかもしれません。まずは、さまざまな特性の子どもたちがいることを知りましょう。

## 接し方・伝え方を工夫する

特性が見られる子どもは、その場の状況を受け入れることが苦手な場合があります。接し方や伝え方を少し変えるだけで本人の苦手意識を軽減させることができ、スムーズなコミュニケーションにつながるかもしれません。次のようなことを意識することはとても効果的です。

### 具体的に伝える

- 「ちょっと待って」→「5分待って」
- 「走ると迷惑になるでしょう」→「走るとぶつかったり転んだりして危ないから歩こうね」

### 一番伝わりやすい方法を探す

- 言葉だけでなく写真や絵、文字など、一人一人に伝わりやすい方法を探す

### 成功体験を増やす

- できそうな事柄の挑戦を促し、「できた」と思える体験を重ねると、達成感と自己肯定感が高まり次の挑戦につながる

## 悩まず相談を

失敗の経験や叱責が重なると子どもは自信をなくし、「自分ではできない」「やっぱりだめだ」といった悪循環に陥ります。ありのままを認めてあげることと得意と苦手の差が大きい子どももいきいきと過ごせるようになります。市には子どもに合った接し方の工夫や配慮などを相談できる窓口があります。お困りの方は気軽に相談ください(4頁)。

